

平成30年度 精華学園高等学校 学校評価書

この学校評価は、学校関係者及び学識経験者、一部上場企業の管理責任者等の方々より、厳正に評価していただいたものです。

1、学校教育目標				
教育目標：徹底的に生徒の立場に立ち、あたたかく、かつ甘えの無い指導を貫く。 中・長期目標：生徒自ら未来を切り開けるよう、生きる力、自立心、心豊かな逞しい精神を備えた生徒を育成する。				
2、自己評価				
評価領域	重点目標	具体的方策	評価(4段階)	重点目標の達成状況の診断・分析
教務	社会性を身に付ける	レポートの提出期日等、規則・期日を守らせる	4	教室や廊下にレポート提出日を貼り出したり、遅れが考えられる生徒に対して早めに提出するよう積極的な指導を行っている。
		基本的な生活習慣を身に付けさせる ・遅刻、欠席をさせない	4	事前に予定を再確認させ、遅刻や欠席の場合には予め連絡するよう指導するなどの積極性が見られた。
		挨拶、礼儀等、基本的なマナーを身に付ける ・挨拶をする ・敬語など丁寧な言葉づかいを身に付ける	4	大きな声で且つ、笑顔で挨拶できる風土が構築されている。
	学習の機会を確保する	学習に取り組める環境を整備する ・教員配置の充実 ・開校日の充実	4	専門性豊かな教育環境を整え、生徒の個性が伸ばせる体制が整っている。
	学力を向上させる	基礎学力を身に付ける ・課題の内容の向上 ・試験に向けた学習指導の向上	4	自分と向き合いながら学業に取り組む生徒が増えている。
		進路実現のため、学力を向上させる ・進学、就職試験に向けた学習指導を行なう	4	面談により生徒の状況を確認したうえで、適正に合わせた指導を行うことで最善の進路選択を導き出しており、結果として合格率が向上している。
積極性、協調性を身に付ける	学校行事により体験学習、共同作業の場を充実させる ・学校行事の拡充 ・生徒の状況に則した行事内容の向上	3	工夫を凝らしたイベントの開催により、協調性が育まれている。	
	学校行事の様子の公開、お知らせ等の強化を行い、参加者を増やす ・生徒へのお知らせの充実	4	風通しの良い環境を築いており、参加者からも好評である。	
進路指導	進路指導を充実させる	進学、就職意欲を向上させる ・個別面談の実施	4	個人の能力・個性を見極め、やる気を引き出す面談内容が充実している。
		個々の進路指導を充実させる ・個別面談の機会の確保	4	社会に必要とされる人材を輩出するための個人面談が充実している。
	保護者及び家庭との連携を図る	保護者に学校での生徒の様子を理解させ、保護者を巻き込んだ進路指導を行なう ・三者面談の向上	4	生徒の立場に立った面談を行いながら効果的な進路指導を行っている。
生徒指導	社会的規範を身に付ける	社会的マナーを順守する	4	教職員が率先垂範し、社会人としての在り方を教えている。
		学校規則を順守する	4	過去の指導の成果もあり、学校規則に反する生徒は見受けられない。
	健全な心身の育成	生徒の個別の事案に対応する	4	心身面や体調面でなにかあれば、すぐに保健室で対応するなどの適切な対応が見られた。
	保護者及び家庭との連携を図る	保護者に学校での生徒の様子を理解させ、保護者を巻き込んだ生徒指導を行なう ・三者面談の向上	4	担任制を導入し、且つ積極的に保護者を巻き込んだ生徒指導を行った。
コース	コース授業内容を充実させる	授業内容の拡充 ・授業内容、指導方法の向上	4	生徒の質問に対的に回答するとともに、応用力が身につく指導を行っている。
		生徒、社会の需要を反映した新たなコースの展開	4	卒業後に役立つ資格取得のコースを実施するなど、社会の需要を反映したコース展開を行っている。
	授業受講意識を向上させる	取得資格、取得技術の充実、向上	3	卒業後にどのような形で資格が必要になるかを、より現実的に理解できるよう指導を行っている。
保健環境	学習環境の整備	校舎の清掃を行う	4	週に一度、掃除の日を定め、生徒と力を合わせて清掃を行っている。
		校舎、備品の管理を行う	4	すべての備品の在庫管理が徹底されており、余裕を持った発注を行うことで欠品することはない。
	健康・安全教育の徹底	環境美化に関する指導 ・課題の設定 ・学校行事を利用した指導 ・ゴミ拾いボランティアの実施	4	年末に大掃除の日を定めて、生徒と力を合わせて校舎内の清掃活動を行っている。また、数か月に一度は校舎外回りの清掃もしている。
	健康診断の実施	3	個別に健康診断を受診し、結果を提出させている。また、遅れた場合にはその都度連絡を徹底している。	
業務改善	業務の効率化を図る	入学等の学校手続きの効率化	4	よりスムーズに入学手続きが進むよう、常に改善を行い最適化されている。
		教育活動業務の効率化 ・生徒の情報管理のシステム化 ・成績管理のシステム化	4	全生徒の情報はクラウドによる管理システムにより管理・運営されており、セキュリティ面においても最新最適な状況である。
		県等への申請業務の効率化	3	過去のデータに基づき、より効率よく申請業務が行えるよう常に改善されている。

3、学校評価総括(取り組みの成果と課題)

【成果】	生徒の個性に合った教育を一貫して行っていることから、個々のやる気と自己啓発を導き出すための教育方法を構築している。その結果、全日制と比較し、転出する生徒が極めて少ない。加えて、進学率が顕著に伸びていることが大きな成果である。
	入学者が着実に増加しているのは、こまめな中学校訪問(説明)によって通信制高校が進路の選択肢のひとつとして認識度が上がったこと、学習機会の多様なニーズに適切に対応できているからだと思われる。卒業生の進路決定(進路先)も全日制と比べて遜色ない水準だと思われる。
	転出者がほぼ「0」に近いことは、学校への信頼の大きな評価の指標である。又、進学、就職の実績も年々充実してきており、評価に値するものである。
	現代の子供たちの悩みや生活状況などをよく把握し、必要な学校の在り方を徹底している。また、常に最新の教育システムを取り入れ、生徒や社会の多様性に合わせた指導が行えるよう努めている。
	生徒が様々な体験をすることができるように、行事等を計画し、前年度以上に行事に参加する生徒が増えてきている。
【課題】	学校運営が引き継がれる人材の育成及び発掘。
	転出者「0」を目指し、進路について各生徒の希望を叶えられるように、更なる指導を学校全体で取り組む。
	社会性をより強く身に付けることができれば更に良いと思われる。
	生徒の幅が広がってきているので、様々な生徒に対応できるような教員のスキルアップが必要。また、特別な配慮が必要な生徒情報を教職員全体で共有するシステム作りも必要だと思われる。

4、次年度への改善策

精華学園では生徒の国際化も進みつつあるので、グローバルな人材を育成していく為にも、更に力を入れて英会話教育に取り組む。
時代の変化に生徒の多様性に合わせた柔軟なコースや様々なプログラムなどを常に意識し変化を心掛けることが肝要である。
人との関りや社会性の重要さをより解りやすく指導できる環境づくりが新たにできればよいと思う。
生徒の幅、人数ともに拡大しているため、教職員の体制を整えて、指導できる環境を作ること。コースを選択する生徒は増えているが、途中で来れなくなる生徒も中にはいるので、授業内容・指導方法をもう一度見直す必要がある。